

BIG BEN

p1 日本クラブ60周年：会長挨拶

p2-5 特集「明治からあった日本クラブ」:

倫敦日本人会の創設／交流の場「倶楽部
会館」／自前のクラブ実現／厳しかった
規則／戦争で封鎖／日本クラブ復活

p6 領事便り：日本入国時の検疫措置

p7 エッセー：日英の病原体との攻防

p8 日本クラブ理事の交代他

会長挨拶

日本クラブ会長・佐崎 孝教

日本クラブ戦後復活 60 周年に あたって

2020年、日本クラブは創立60周年を迎えます。1960年、チェルシーにあるテムズ川に面した建物で、日本食レストランや会議室を持つメンバー制のクラブハウスを開設したのが始まりですが、これは第二次世界大戦で一時中断後の再開の位置づけであり、起源は明治時代に発足した倫敦日本人会まで遡ることができます。そのように明治時代から続く長い歴史において、会員の皆様、関係者の皆様の弛まぬ努力によってクラブが支えられてきたことに対し、深く敬意を表したいと思います。

ご存じの通り、日本クラブは会員・在英邦人の皆様に「医療」、「教育」、「日英文化交流」の3本柱を身近な価値として提供すべく、これまで活動を続けてきました。長い歴史の中では、時代の変化の中で幾度と無く日本クラブに対するニーズも変化してきたと思いますが、この3本柱の伝統は絶やすことなく、死守してきました。その伝統を確り（しっかり）とご評価頂き、今に至っていると感じています。

昨今は世界的に政治・経済両面で変化が激しい時代になっていると思います。プレクジットや新型コロナウイルスなど、今まででは考えられなかったことが次々と発生し、日系企業の欧州、英国に対するスタンスも少しずつ変化してきています。日本クラブにおいてもクラブハウスをピカデリーからサザックに移転し、2つあった診療所を1つに集約したり等、ここ10年で大きな決断を

してきたのは事実です。クラブそのものの役割もこのような時代のうねりの中で更に変化する必要がありますがあるかもしれませんが、そのような厳しい時代だからこそ、会



佐崎孝教（さざき・たかのり）会長

員、在英邦人の日常生活における身近な存在であり続けるという日本クラブのコアな伝統は確りと引き継ぎ、そのたすきを次の世代へ確実に渡すことが重要と感じています。会員の皆様への更なるサービスの拡充もそうですし、それらの活動を支える財務収支の安定、健全化も重要です。そのために何ができるか、皆様のお知恵を是非とも頂きながら、考えていきたいと思ひます。

創立60周年を記念して、広報委員会では日本クラブの歴史を解説する特集記事を連載しています。歴史ある日本クラブをより身近に感じてくださる良い機会と思いますので、お時間が許す限り、ご覧頂ければ幸いです。

最後に、日本クラブの益々の発展と、会員の皆様、在英邦人の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、私の挨拶に代えさせていただきます。

注：今月号の「びっぐべん」は日本クラブ戦後復活60周年記念の特集を組んでいます。そのため、いつもの号と通常記事のページ配置等が変更されていますのでご了承ください。
(編集部)

明治からあった日本クラブ = 始まりは倫敦日本人会 =

◇ 倫敦日本人会の創設

ロンドンにおける日本クラブの起源は139年前、遠く1881年（明治14年）までさかのぼる。当時英国に駐在する外交官や留学生、商社員などが月一回、ストランドにあるレストランで会食し、政治や経済情勢について議論したり、各自の近況報告をしたりしていた。ゲストを呼んで話を聞くこともあった。1872年に岩倉使節団が近代国家日本の指針を求めて英国を訪問してからおよそ10年がたったころだ。レストランに集まるのは20～30人で、この会を「倫敦日本人会」と称していた。ロンドンにおける日本人の組織としては、72年に開設された公使館を除けば最も古い歴史を持つ。

日英史研究家の大庭定男氏がかつて「びっぐべん」に連載した「日本クラブ100年の歩み」によれば、1921年に発行されたアルバムの中には「倫敦日本人会の目的」という説明文があり、「会員相互の親睦を容易にし、友情を温め品性の向上を図り、協力共助の美風を涵養する」と書かれている。

当時のロンドンは先進国の首都として繁栄しており、日常生活には不便はなかったが、風俗や習慣、言語の違いなどから、特に単身赴任者は孤独になりがちだった。倫敦日本人会は日本人が相互の交歓親睦によりホームシックにかかるのを防ぎ、早く英国の土地に慣れることを目的にしていた。その後、1888年からは園田孝吉領事の公邸に毎月集まるようになり、園田夫妻がいろいろと面倒を見てくれた。ただ、あまり領事のお世話になるのも良くないということで、日本の官僚、尾崎三良氏の英国留学時代の妻バティアさんと契約し、ベイズウォーターにあった夫人宅に集まるようになった。そのころ（1893年）、ロンドンには116人の日本人が暮らし、そのうち約40人が倫敦日本人会のメンバーだった。

◇ 交流の場「倶楽部会館」

日清戦争（1894～95年）に勝った日本は国力をつけ、英国との通商は拡大し始めた。1902年には日英同盟が締結され、ロンドンの駐在員も徐々に増え続けた。04年、倫敦日本人会はコベント・ガーデン（キング・



第2次世界大戦前の日本倶楽部会館（3 Cavendish Square）



現在の3 Cavendish Square

ストリート39番地）の建物を借り、会員がいつでも集まれる倶楽部会館を作った。この会館にはラウンジや

特集

明治からあった日本クラブ



39 King Street



76-78 Mortimer Street

会議室、食堂、図書室があり、当時 60～70 人いた会員がいつも集まっていた。食堂は事実上、ロンドンで最初の日本食レストランであり、うなぎのかば焼き、舌平目の刺身、エビの天ぷらといった日本料理を食べることができた。

その後、日露戦争（1904～05 年）に勝った日本は国際的な地位も上がり、日英貿易も急増した。06 年には在英邦人が 276 人に増え、日本人会の会員は 12 年に約 100 名となった。倶楽部はこのため手狭になり、12 年、オックスフォード・サーカス北側のモーティマー・ストリート 76 - 78 番地に建物を借り、移転した。

◇ 自前のクラブ実現

14 年に第 1 次世界大戦が始まると、日本は日英同盟の関係からドイツに宣戦布告した。英国の対日感情は非常に良く、英国における日本製品の輸入も急激に伸

びた。19 年には在留邦人 971 人、日本人会会員 292 人となった。「そろそろ自前の倶楽部会館を」との機運が高まり、19 年、キャベンディッシュ・スクエア 3 番地の建物を当時のお金で 1 万 5,000 ポンドを投じて購入、自前の倶楽部会館を設立した。

この日本倶楽部会館には談話室、図書室、食堂、バー、ゲーム室、宿泊施設等が完備し、英国特有のジェントルマンズ・クラブのような施設だった。当時、倫敦日本人会の会員になれたのは大使館、商社、銀行などの中堅以上の人で、駐在員でも役職のない人は会員にはなれず、会員である上司に連れて行ってもらわないと会館には入れなかった。戦前、在英邦人数が一番多かったのは 20 年だが、1,638 人の邦人に対して、日本人会の会員になれたのは 400 名に限られており、当時の日本人会がいかにもエリートのための組織だったかが分かる。多くの日本企業幹部、学者、海軍高官、政治家が倶楽部を訪れ、訪英中の首相が立ち寄ったこともあった。

◇ 厳しかった規則

倶楽部会館は午前 11 時から深夜 12 時まで開いており、月曜日が休館だった。日本人会の会員はお客さんや部下を連れて倶楽部で食事をしたり、お酒を飲んだり、ビリヤードやブリッジを楽しんだり、日本の新聞や書籍を読んだりすることができたが、英国のクラブと同様、厳しい規則も設けられていた。

まず、一度に連れていけるゲストの数は 6 名までと限られていた。来館者名簿に記帳すること、使用人へのチップや酒類の持ち込みは厳禁、トランプは備え付けのもの以外は使用禁止といったような規則が設けられていた。

酒類を出すのは週日午後 12 時半～午後 3 時と午後 5 時～午後 11 時、日曜日は午後 1 時半～午後 2 時半と午後 6 時～午後 9 時に限られていた。これは英国の酒類販売ライセンスにのっとったもので、クラブには通常、ライセンスの法律は適用されないが、日本倶楽部はこういう厳しい規定を設けて品位と格式を保っていた。

◇ 戦争で閉鎖

だが、良好だった日英関係も 30 年代に悪化した。繊維をはじめとする日本製品が競争力を増したことへの英国の危機意識、さらには日本が満州や中国に進出したことへの懸念を背景に、英国の在留邦人の立場も微妙なものになっていった。

特集

明治からあった日本クラブ

39年に第2次世界大戦が勃発し、日本はドイツと同盟した。英国における反日感情は強くなり、ロンドンにおける日本人の生活も不自由さを増した。駐在員の数も減り始め、日本人会名簿に登録された会員数は187名まで減った。40年には総領事をはじめ新聞社の特派員や、銀行・商社員やその家族が中立国アイルランドを経由して船で引き揚げた。ロンドンに残った少数の日本人は、灯火管制と配給切符制の不自由な日常と反日機運の中での生活を余儀なくされた。

41年になり、日本軍の南部仏印進駐、太平洋戦争開戦とともに、米、英、オランダにおける日本の資産が凍結された。ロンドンの日本倶楽部も敵国財産ということで閉鎖され、スイスの管理下に置かれた。戦争中、在英日本人はマン島にできた強制収容所に「敵性外国人」として収容された。外交、ビジネスをはじめ、あらゆる分野で日本と英国の関係は断たれた。倫敦日本人会は永住日本人の組織であった「同胞会」とともに解散を余儀なくされた。

戦後の52年、サンフランシスコ平和条約が発効し、日本は正式に在外資産を放棄。日本人会が所有していた日本倶楽部会館も英国側の手に渡り、30年を超える歴史に幕を下ろした。

◇「日本クラブ」復活

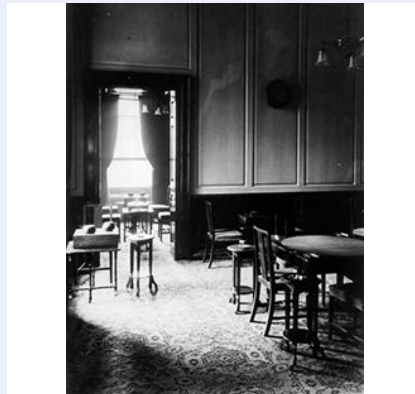
戦後、日本経済は徐々に回復し、52年にはロンドンに日本大使館が再開設された。海運会社や銀行、商社などの日本企業がロンドンで活動を再開し、在英の日本人も55年には約400人にまで回復した。当時はなお反日感情が強く、駐在員は家を借りるのにも苦労したという。日本食レストランや日本食材店はもちろん、日本人が訪れてくつろげる場所はほとんどなかったと言ってよい。

そんな中、マープルアーチのそばで戦前、小さな旅館を経営し、戦後にロンドンに戻った佐竹為吉氏が、自宅に駐在員を招いて手料理をふるまうようになった。集まった人々の間で、戦前のようなクラブ会館を復活させてはどうかとの話になり、その機運は高まっていった。

Cavendish Square にあった倶楽部会館内部



ラウンジ



ロビー



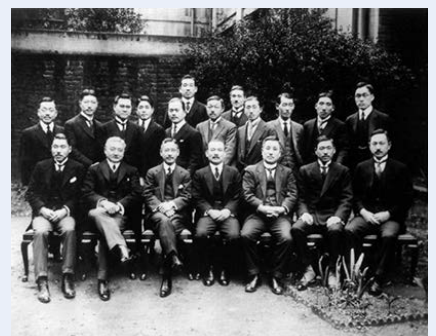
図書室



ダイニング・ルーム



ビリヤード室



当時の役員

特集

明治からあった日本クラブ



戦後復活した当時の日本クラブ建物



現在の 3 Chelsea Embankment

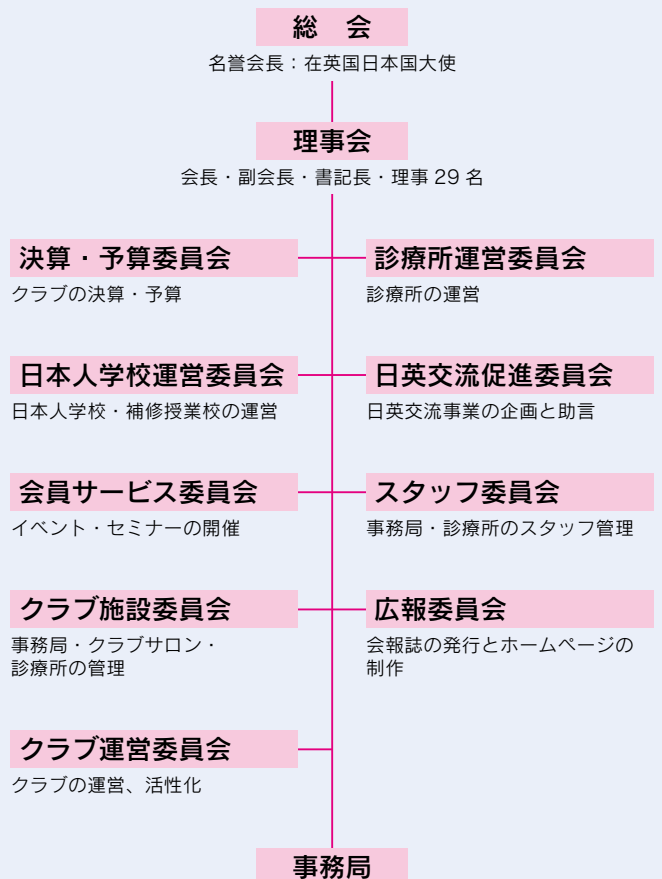


現在のクラブハウスのあるユーロポイントセンター

そして、日本人有志が 60 年（昭和 35 年）にチェルシーのテムズ川に面した建物を 5 万ポンドで購入。その年、大食堂や図書室、談話室などを備えたメンバー制のクラブハウスが開設した。こうして、かつての倫敦日本人会・倶楽部会館は「日本クラブ」として再スタートを切った。個人会員 250 人、法人会員 50 社での再出発だった。日本クラブは以降、在留邦人に対し、医療や教育に関する支援を行うとともに、日英親善への貢献を目的とした活動にも乗り出していった。

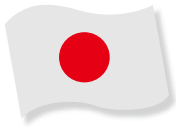
（文 片山哲也）

日本クラブ組織図 (2020 年)



日本クラブ会員数 (2020年4月14日現在)

会員カテゴリー	世帯数
法人会社・正会員	1,724 (1,789)
永住者会員 (60 歳未満)	160 (301)
永住者会員 (60 歳以上)	237 (137)
一般個人会員	58 (134)
個人駐在員会員	16 (18)
学生会員	0 (4)
法人会社：	203 社 (329 社)
家族を含めた総会員数：	5,070 (5,700)
カッコ内は 2010 年の数字	



新型コロナウイルス 日本入国時の検疫措置

新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、4月3日午前0時以降に英国から日本に入国される方には、厚生労働省により概要以下の水際対策強化のための新たな措置が執られています。

1 検疫の強化

- (1) 検疫法に基づき、本邦空港にて検疫官に上記対象地域からの入国である旨を申告することが義務づけられています。
- (2) 空港の検疫所において、質問票（滞在先、移動手段、入国便名、電話番号等）の記入、体温の測定、症状の確認などが求められます。全員にPCR検査が実施され、自宅等、空港内のスペース又は検疫所長が指定した施設等で、結果が判明するまでの間待機することとなります。
- (3) 検査結果が陽性の場合、医療機関に隔離（入院）されます。
- (4) 検査結果が陰性の場合も、入国から14日間は、ご自宅やご自身で確保された宿泊施設等で不要不急の外出を避け、待機することが要請されるとともに、保健所等による健康確認の対象となります。
- (5) 上記の検査等は、検疫法に基づき実施するものであり、検疫官の指示にしたがわない場合には、罰則の対象となる場合があります。

2 注意すべき点

- (1) 流行地域の拡大に伴い、PCR検査の対象となる方が急増しており、到着から入国まで数時間、結果判明まで1～2日程度、空港等において待機いただく状況が続いているとのことです。帰国を検討される場合には、上記のような空港の混雑状況や待機時間について十分留意する必要があります。また、航空便の運航状況について、利用予定の航空会社のウェブサイト等で確認の上、適切な時期を検討されることをお勧めします。
- (2) 自宅等でPCR検査の結果を待つ場合、症状がないこと、公共交通機関（鉄道、バス、タクシー、航空機（国内線）等）を使用せずに移動できることが条件となるため、事前にご家族やお勤めの会社等による送迎、ご自身でレンタカーを手配するなどの移動手段を確保する必要があります。また、検査結果が判明するまで、ご自身で確保されたホテル、旅館等の宿泊施設には移動できません。
- (3) 上記は、本稿執筆時点での情報ですのでご留意願います。
詳しくは、厚生労働省ホームページ、「水際対策の抜本的強化について（新型コロナウイルス感染症）https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00098.html」をご覧ください。



ロビン・グライムス教授に 外務大臣表彰

科学・技術の分野において日英の交流と促進に貢献したとして元英外務省の科学技術顧問のロビン・グライ

ムス教授が外務大臣表彰を受賞した。グライムス教授は2002年以来ロンドンのインペリアル・カレッジの物質物理学の教授を務め、現在は英国防省の科学分野の科学技術顧問を務めている。教授は2011年の東日本大震災の際に福島第1原発事故に対する適切な科学的アドバイスを英政府を通して行い、日本における科学的根拠に基づいた分析の助けとなった。また、日英の科学・技術分野交流推進のため、外務大臣科学技術顧問を務める岸輝雄東京大学名誉教授

とともに科学外交のための活動をしたり、日英原子力年次対話での英国側議長を務めたりした。表彰状の授与式は2月6日（木）日本大使公邸で行われた。（写真：日本大使館提供）





日英の病原体との攻防

ある時代、ある所で当たり前のことでも、歴史的、地理的フィルターをかけると、常識が大きく変化することがあります。

イギリスに来た頃の頃、イギリス人が、女性でも大きな音を立てて、人前で鼻をかむのに驚きました。それも、ティッシュではなく、ハンカチでかんで、その後はカーディガンの袖などに入れ込むのです。30年前には、それほどティッシュが普及しなかったため、女性も男性もハンカチを持ち歩いていましたが、それは手を拭いたりするものではなく、鼻をかむものだったのです。現在でも、日本のティッシュが薄く柔らかなのに対して、イギリスで売られているポケットティッシュは、ペーパーナプキンのように分厚いので、やはり1回使っただけで捨てる気にならないらしく、その行く末は同じようなものでした。

しかしこのような悪しき習慣も、様々なウィルスの流行を経て、日本のように、1回鼻をかんだティッシュは捨てるという公衆道徳が行き届いてきている感じがします。(でも、お風邪のローマ法王は白いハンカチをお使いでしたが・・・)

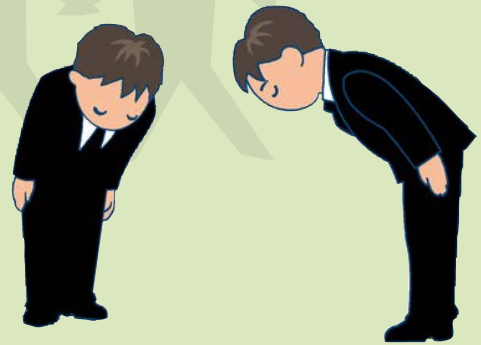
一方、日本に行ったイギリス人が違和感を覚えるのが、日本人が無意識にしている鼻をすする音です。スープをすすったり、スパゲッティをすすったりするのと同じく、これらはマナー違反ととらえられます。

また、イギリスでは耐性菌ができるのを恐れて、本当に必要な時しか抗生物質が処方されませんでした。少し前には日本では風邪をひいて医者に行くと、すぐに抗生物質を出されたりしていて、驚いたものです。

このたびの新型コロナウイルス対策として、公衆に向かってアピールするイギリスのコミュニケーション能力が素晴らしいと思ったことがあります。それは手洗いを勧めるやり方です。ただ単に「よく洗う」と言うのではなく、20秒間洗うことの推奨の際、ボリス・ジョンソン首相が、「手洗いの時にはハッピー・バースデーの歌を2回歌ってください」と呼びかけたのです。実際歌ってみると、1回が15秒でしたから、2回歌えば、20秒以上となります。子供にも分かる具体的な訴え方で、さすがと脱帽しました。

イギリスでは挨拶の際に、握手やハグをすることが多いのですが、コロナ対策では“social distance”が推奨されました。日本式の御辞儀ですと、何の問題もないのですが、こちらでは、どのように親しみのある挨拶をするのか、皆頭をひねりました。とにかくどこかは接触させたいらしく、新たな挨拶方法が紙面をにぎわせ、肘を突き合せたり、靴のつま先を合わせるなどの方法が、まじめにユーモアたっぷりに紹介されていました。

いつの世も、目に見えない病原体の方がしたたかで、生き延びようとしているわけですが、人間は後手に回りながら、何とか皆で協力して、防戦していきたいものです。



2020年4月着任の先生



ロンドン日本人学校

教頭	森下 理香 (もりした りか)	三重県
教諭	林 美佳 (はやし みか)	東京都
教諭	白谷 祐史 (しらや ゆうし)	愛知県
教諭	樋口 友香 (ひぐち ゆか)	大阪府
教諭	桐 陽介 (きり ようすけ)	熊本県
教諭	椿 智美 (つばき ともみ)	新潟県

新型コロナウイルス最新情報！

日本クラブ診療所では、新型コロナウイルスについての情報を適宜更新の上、配信しております。日本クラブ診療所Webサイト、下記のリンクより閲覧ください。

<http://www.nipponclub.co.uk/clinic/information/index.html>

日本クラブ理事の交代

- ◆ 副会長：藤谷泰之氏より宮田裕彦氏へ（ともに三井物産）
- ◆ 副会長：久保田圭二氏より芹沢総太氏へ（ともに日本郵船）
- ◆ 副会長：狩野 功氏より片山祥徳氏へ（ともに三菱商事）
- ◆ 副会長：石附武積氏より矢部延弘氏へ（ともに丸紅）
- ◆ 副会長：伊原隆史氏より阿部利宏氏へ（ともに三菱UFJ 信託銀行）
- ◆ 決算予算委員会（正）：佐藤理郎氏より武山靖博氏へ（ともに三井住友信託銀行）
- ◆ 日本人学校運営委員会（正）：石塚雄一氏（キャノン）より柳沢志向氏（大和証券）へ
- ◆ 日本人学校運営委員会（副）：柳沢志向氏（大和証券）より大塚 仁氏（東芝）へ

日本クラブ・ゴルフ同好会

- ◆ 月例会：開催中
- ◆ 会 場：Maidenhead Golf Club
- ◆ 問い合わせ：☎ 07956-551363（外山健二）
kenjitoyama787@gmail.com
随時入会受付中（申し込みはHP から）

日本クラブ・ブリッジ会

- ◆ 例 会：毎週木曜日（11:30am 開始）
- ◆ 会 場：ヤングチェルシー・ブリッジクラブ
<http://ycbc.co.uk>
- ◆ 問い合わせ：yasy9395@aol.com（宮崎）
見学者歓迎

日本クラブ・グリーンコーラス

- ◆ 練習日：毎週月曜日（10:15～12:30）
- ◆ 会 場：Trinity Church, Golders Green
- ◆ 問い合わせ：
londongreenchorus@gmail.com

日本クラブ囲碁会

- ◆ 例 会：毎週土曜日（14:00～20:00）
- ◆ 会 場：Inn of Court Pub
地下鉄 Chancery Lane Exit 3 より直進 2 分
- ◆ 問い合わせ：☎ 07956-594040（田中）
tanaka@gokichi.org.uk

クラブサロンのご利用について

日本クラブのクラブサロンはロンドン中心部セント・ポール大聖堂のテムズ川対岸のサザックにあります。ラウンジや会議室、ソフトドリンク、JSTV 等のサービス施設があります。テムズ川南岸のこの地区は再開発が進むエリアで、テートモダン・ギャラリーを始め、数々の店やレストランが並んでいます。地下鉄ジュビリー線のサザック駅から徒歩 5 分、ロンドン・ブリッジ駅からは 10 分の便利な場所にあります。会員であれば誰でもご利用になれます。



地図はホームページ (www.nipponclub.co.uk) の「日本クラブご案内図はこちら」を参照してください。

◆ **新型コロナウイルスに関して、英国政府の自宅待機要請のため、3月24日より事務局及びクラブサロンは閉鎖しております。**

- Nippon Club
Ground floor, Europoint Centre
5-11 Lavington Street, Southwark, London SE1 0NZ
- ◆ 事務局は閉鎖中ですが、メールはそのまま使えます。
Email: jimukyoku@nipponclub.co.uk

ロンドン日本人学校

ロンドンにある特性を生かしつつ、学習指導要領に準じた教育を実践しています

- 運動会・文化祭などの行事
- 整った学習環境
- きめ細かな進路指導・進路講演会
- 英会話や英語活動
- 英語検定や漢字検定の実施
- 現地校との交流
- 放課後の楽しい部活動(5年生以上)
- 通学バス利用可



ロンドン補習授業校

英国の現地校等に通学している子ども達が、国語（日本語）の勉強をする「サタデースクール」です

- 毎週土曜日午前中授業
- 授業回数年間約40回
- 校舎はアクトン、プレント、クロイドンの3校舎
- 小・中学部・高等部（学習指導要領に準じたカリキュラム）
- 日本語科（日本語を第2母国語とし、日本語の習得を望む児童生徒対象に7クラス設置）

入学・転入学随時受付 TEL: 020-8993-7145

● **日本クラブ** 在英日本企業200社がサポートしています / 英国で50年以上に亘り日本語で最新医療を提供しています

NIPPON CLUB メディカルクリニック

内科
小児科
一般診療

東京慈恵会医科大学の派遣医師が常勤しています

- 各種旅行傷害保険取扱
- 海外派遣員医療保険取扱
- 健康診断・婦人科検診随時実施
- キャッシュレス対応

内科・小児科を中心とした一般診療に加え、健康診断、乳幼児検診、婦人科検診、各種予防接種を行うほか、日本人専門医による内視鏡検査も行っています。最新設備を備えた総合病院内で診療しているため、CT/MRIなどの専門検査や各種専門医への紹介・入院手続が可能です。

旅行
保険で
キャッシュ
レス

www.nipponclub.co.uk/clinic

Hospital of St John & St Elizabeth (Brampton House 1F)
60 Grove End Road, London NW8 9NH (Jubilee線St John's Wood駅から徒歩3分)

020-7266-1121
(要予約、年末年始と祝日を除く毎日診療)